

3節 三瓶火山関連埋没林分布調査

三瓶小豆原埋没林に関する聞き取り調査の中から、他地域においても三瓶火山に起因すると考えられる埋没林や埋没林の可能性のある埋没木地がわかってきたので、その概要を報告する。

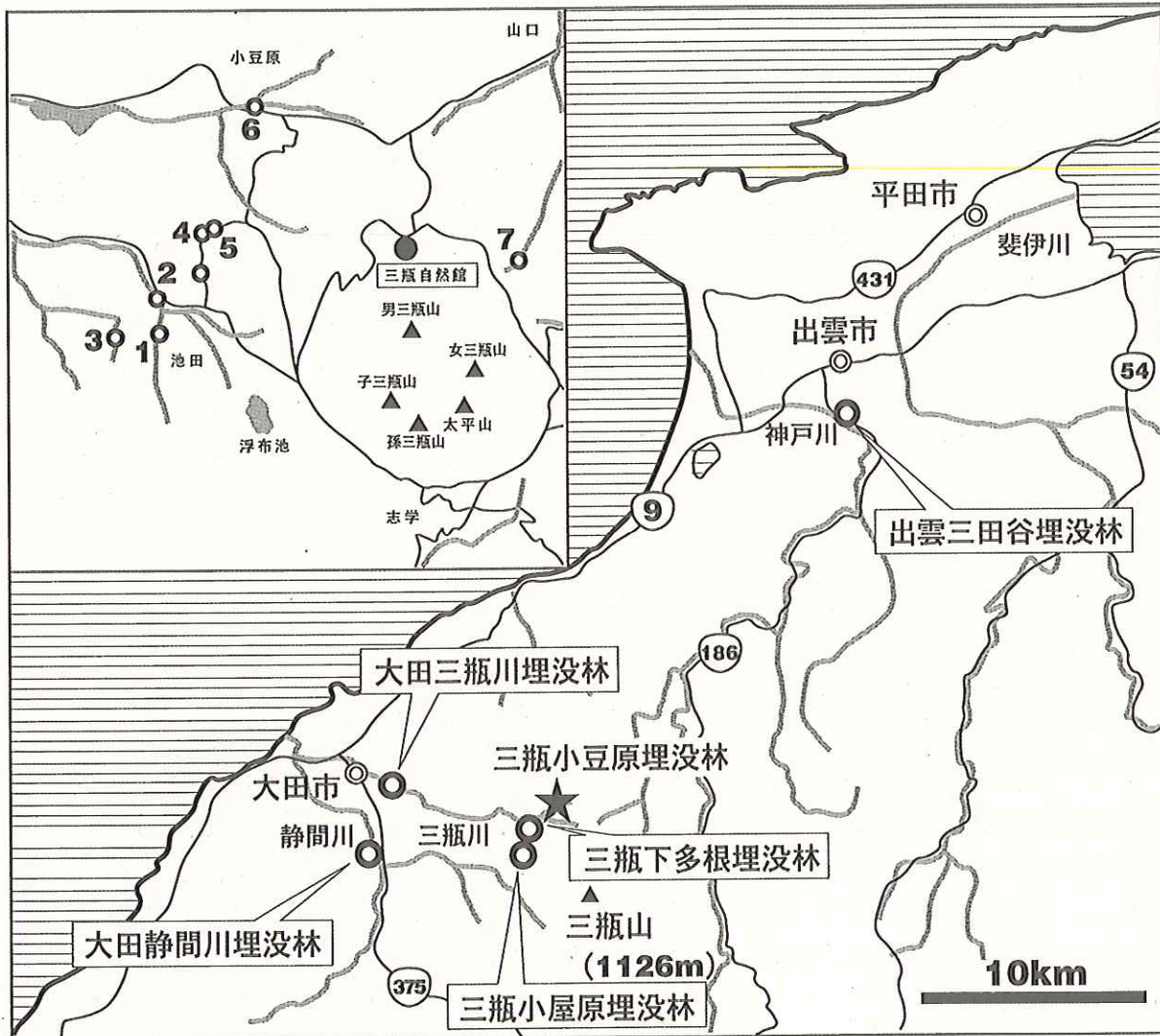


図4.3-1 三瓶火山関連埋没林位置図

1. 三瓶下多根埋没林

三瓶小豆原埋没林に隣接する、大田市三瓶町下多根地区にも多くの埋没木があり、この地区の埋没林を三瓶下多根埋没林と呼ぶことにする。当該地域における調査は、聞き取り調査と現地調査によるものであり、聞き取り調査は主として次の方々から行った。

- ・山本重義氏（大田市三瓶町多根，北三瓶公民館長）
- ・藤原眞章氏（大田市三瓶町池田，(有) 緑建設社長）
- ・松田襄治氏（大田市三瓶町野城，養鶏場経営，元小豆原地区在住者）
- ・古志泰博氏（大田市久手町，元三瓶こもれば館支配人）

《概要》

大田市三瓶町多根の下多根地区で確認された埋没林で、山本重義氏宅の前を流れる小川とその河川周辺の水田で多くの埋没木が見つかった。この内の多くは、昭和50年の水害で埋没木を覆っていた土砂が洗い流され出現したもので、山本氏は流木も含め7本を確認している。この内の1本は、自宅の進入路のコンクリート舗装の下にあり、直径1m以上のケヤキの大木が埋まっているという。また、マツ類の樹幹も出現し、それは橋の下流の左岸側に露出しており、少し前まで見えていたが今は見えなくなった。また、橋の上に流れ込んでいる水路の三面コンクリートの下にも、スギの横たわったものがあるはずだ。自宅の上流部にある水田内にもスギの横たわったものが今でもあり、1mほど掘れば直径が1m弱のものが出てくるはずだ。さらに、アスナロの倒木も出土し



写真4.3-1 以前掘り出されたアスナロの一部

ており、本体は福山から来ていた土木業者が持ち帰った。材は直径1m以上あり、割れた材の一部をもらい受け、テーブル用に厚さ10cmほどに製材したという。この材の一部が現在でも残っている（写真4.3-1）。

この他、折れたヒノキの大木も出土している。これを掘り出した藤原真章氏によれば、長さが4m、直径が1.8mもある大きなもので、根株もついていた。

4tクレーンで吊ったが上がらなかったほどの巨木で、年輪が非常に詰んでいたという。

さらに、現地調査により小川の中に露出している直立したスギの樹幹部を確認することができた。露出部の直径は約65cmで、水面上に出ている高さは約60cmであった。露出部の形状から樹幹部と考えられ、水面下にはかなりの樹幹部が埋もれているものと思われる（写真4.3-2）。



写真4.3-2 下多根地区。川の中に先端部が露出している埋没木

さらに、山本重義氏の話では、自宅から50mほど下の旧家に、以前、ケヤキの埋もれ木でつくった板戸が4枚あった。大きさは1m以上ある大きなものであったが、売却されて現存しないという。この他、山本氏の自宅から南西に300mほどにある民家の裏山では、明治時代に起こった山抜けで埋没木が出土したという情報も付近の住民から得ている。

これまでにわかった三瓶下多根埋没林は、概ね図4.3-2のとおりである。なお、山本重義氏の話では、県道の北側にある水田でも、あまり大きくない埋もれ木（倒木）が出たことがあるということであり、今後の調査によってはその範囲が広がる可能性が高い。

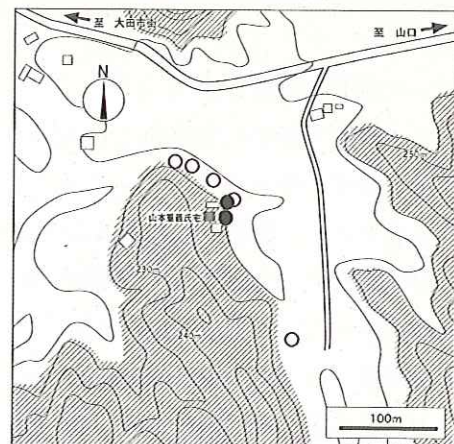


図4.3-2 下多根地区の埋没木位置
黒丸：立木、白丸：倒木

2. 三瓶小屋原埋没林

三瓶小豆原埋没林の南側で、標高の少し高い位置にある大田市三瓶町小屋原地区にも多くの埋没木があり、この地区の埋没林を三瓶小屋原埋没林と呼ぶことにする。当該地域における調査は、聞き取り調査と現地調査によるものであり、聞き取り調査は主として次の方々から行った。

- ・森脇義信氏（大田市三瓶町小屋原）
- ・藤原眞章氏（大田市三瓶町池田、(有) 緑建設社長）
- ・原 政憲氏（大田市三瓶町野城、材の切り出し従事者）
- ・高橋稔昌氏（出雲市芦渡町、元出雲木材市場勤務）
- ・松田襄治氏（大田市三瓶町野城、養鶏場経営、元小豆原地区在住者）

《概要》

小屋原川沿の河岸部や水田で確認されている埋没林で、これまでに確認された場所は上流部の堀越地区、その下流部のわさび田付近、さらに下った小屋原温泉周辺部、その下の水田部などである。堀越地区の埋没木産地は、盆地状の水田地帯で以前は沼であったと言い伝えられている場所である。藤原眞章氏によれば、以前水路工事中に長さ9m、直径80cmほどの広葉樹と思われる埋没木を掘り出したことがあるという。また、複数の人の証言から、



写真4.3-3 道路下に両手方向に今でもスギの埋没木が埋もれている

この辺り一帯にはやわらかな泥が深く堆積しており、少し掘るとヨシなどの根の遺物が多数出土するということがわかっている。また、下流部のわさび田付近では、道路改良工事中に横たわったスギが出土している。この埋没木は、末口直径40cmあるかなり長い樹幹で、先端部を1.8mほど切り出し残りは現在も道路のしたに残存しているということである。このスギ材の年輪は粗かったたということであり、現在も藤原眞章氏の自宅の鴨居に使われている（写真4.3-3）。

小屋原温泉周辺部やその下流部の水田で出土した埋没木は複数あり、森脇義信氏によれば昭和18年及び19年災害の時、小屋原温泉の下で直径50～60cmほどで長さ4～5mの埋没木（樹種不明）が5～6本出土し、護岸工事のため撤去されたということである。また、現在の小屋原温泉の建物の地下3～4mほどのところに直径50～70cmほどの埋没木（樹種不明）があり、現在もそのまま埋まっているという。

さらに、小屋原温泉下の堰堤工事の時には、直立したスギの埋没木が出土し切り出されたことが、チェーンソーでその巨木を切り出した原 政憲氏の証言から明らかとなっている。このスギの巨木は、直径は3mほどあったが中に1mほどの空洞があったということである。この他、材木市場で埋没木の売買を担当していた高橋稔昌氏は、同じ小屋原温泉の近くで直径3mほどの直立したスギの巨木の切り出しに立ち会った経験があるという。この樹幹には穴はあいておらず、切り出したのは6mほどで、搬出が大変であったと語っている。これらの切り株は、現在も地下に残存しているという。

3. 大田三瓶川埋没林

三瓶川下流部の河川敷内に埋没林があることが以前から知られていた。聞き取り調査や現地調査

により、埋没林であることがほぼ明らかとなったので、この地の埋没林を大田市三瓶川埋没林と呼ぶことにする。当該地域における調査は、聞き取り調査と現地調査によるものであり、聞き取り調査は主として次の方々から行った。

- ・森脇義信氏（大田市三瓶町小屋原）
- ・原 政憲氏（大田市三瓶町野城、材の切り出し従事者）

《概要》

大田市の中心部を流れる三瓶川の下流部の河川敷内に、かなりの数の埋没木があり、これまでに知られているだけでもかなりの埋没木が切り出されている。埋没木のある場所は、日の出橋下流部、大田高校前上流部、野城橋下流部などの三瓶川の河川敷内で、護岸工事などの時に掘り出されている。倒木が多いが、中には直立した樹幹や根株のある埋没木も確認している。森脇義信氏によれば、昭和52～53年頃根元のある直径1m以上ある長さ4mほどの埋没木が掘り出され製材されたということである。また原 政憲氏は、依頼を受けて大田の日の出橋下流部で直径1m、長さ5～6mのスギを切り出している。さらに、野城橋下流部でも直径1m、長さ3～4mのスギの巨木を切り出している。現地調査を行ったところ、現在でも日の出橋下流部に数本の埋没木が露出しており、この中には直立したまま埋没していると思われるものも確認された。これらの埋没木の内、最も巨大な樹幹についてその樹種と炭素年代測定を行ったところ、埋没木はトネリコ属で埋没年代は $3,710 \pm 60y.BP$ であることが明らかとなった。この埋没年代は、三瓶小豆原理没林の埋没年代とほぼ同時期であり注目される（写真4.3-4～5）。

4. 大田静間川埋没林

三瓶小豆原理没林のニュースを聞いた大田市川合町の市民の方から、河合町内を流れる静間川の河川内にも埋没林らしいものがあるとの通報をいただいた。現地調査を行ったところ、静間川の河川内に埋没木が水面から突き出しており、埋没林であることを確認した。



写真4.3-4 日の出橋下流部全景

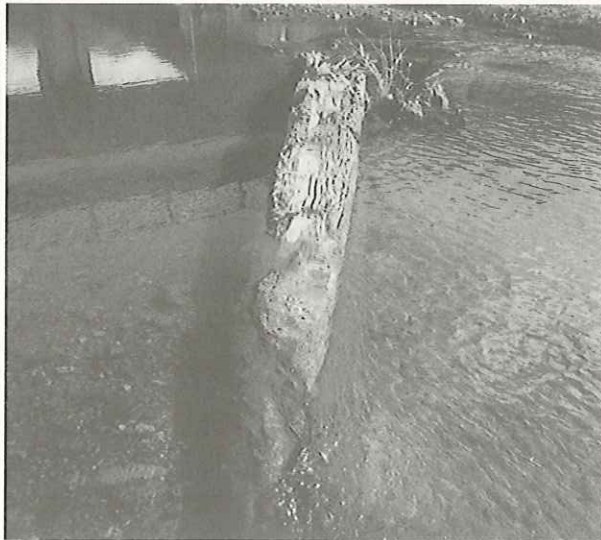


写真4.3-5 河床に横たわって露出する埋没木

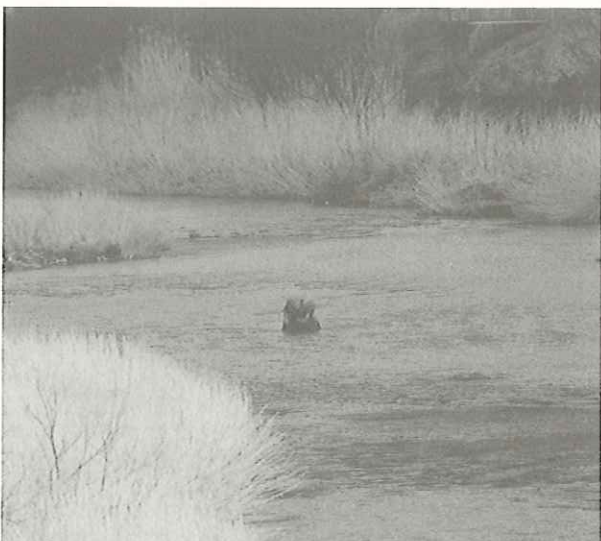


写真4.3-6 河川中央部の島状のものが埋没木

この地の埋没林は、少なくとも6本の自立した樹幹が確認され、大田市静間川埋没林と呼ぶことにした。現在のところ、樹種や埋没年代は不明である(写真4.3-6)。

5. 出雲三田谷埋没林

出雲市上塩冶町の斐伊川放水路予定地内の三田谷地区に、埋没林が存在することが島根県埋蔵文化財センターの職員から伝えられた。建設省が放水路建設に先立ち、同センターに委託し実施していた埋蔵文化財調査の中で確認されたものであり、これまでの同センターの調査によれば、三瓶火山の噴出物が大量に流下し当時の谷の出口を塞いでできた埋没林で、三瓶小豆原埋没林の埋没年代とほぼ同年代であることが明らかとなっている。この調査で確認された埋没木の樹種は次のとおりである。

コナラ属アカガシ亜属9本、シイノキ属1本、サカキ1本、モミ属2本、クマシデ属?1本、サクラ属2本、ムクロジ1本、クワ属3本、ムクノキ属2本、ヤナギ属5本、エノキ属3本、イイギリ属?1本(島根県教育委員会, 2000)

なお、同じ場所で埋没林が形成された土砂の流下の後に池状の水域ができていたことが明らかとなっており、この場所でスギで作られた丸木舟も発見されている。また、この池状の堆積土の中には極めて保存状態のよい木の葉や種実が含まれていることもわかっていった。筆者らは、建設省出雲工事事務所の協力を得て、この堆積層の予備調査を行うことができた。その結果、約70cmの堆積土の中にはおびただしい数の木の葉が含まれており、出土した木の葉の形状から樹種を特定できるものがあることを確認することができた。これまで抽出した試料はわずかであるが、ウラシロカシの葉などが含まれているこ

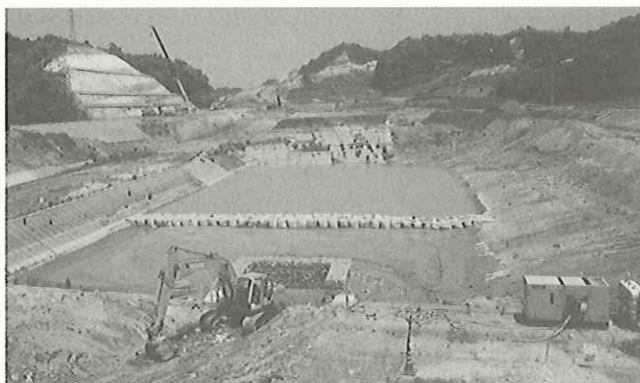


写真4.3-7 斐伊川放水路予定地全景



写真4.3-8 出雲三田谷埋没林全景
(島根県教育委員会提供)



写真4.3-9 工事のため掘り出された埋没木

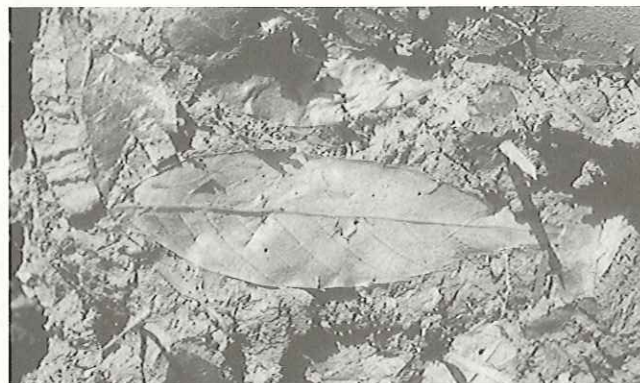


写真4.3-10 出雲三田谷埋没林から出土した葉片

となどが分かった。また、ヒシの実もかなりの頻度で出土したことから、池状の水域にはヒシが生育していた可能性が高いことも明らかとなった（写真4.3-7～10）。

6. 三瓶町池田西田川下流部埋没木出土地

三瓶町池田相川地区を流れる静間川支流の西田川下流部において、昭和48年の洪水により出土した埋没木が森脇義信氏の証言から明らかとなっている。この埋没木は、直径約1m、長さ約8mのもので、護岸工事を請け負っていた建設業者により搬出され、用材として売買されたという。また、藤原眞章氏によれば、昭和57年災害の時、同じ西田川下流部で深さ6mほどの場所に横たわっていたスギの樹幹を



写真4.3-11 3人が並んでいる方向に長大な埋没木が埋まっていた。

掘り出したという（根株はなし）。この埋没木はスギ材で、直径が末口で1.5m、元口で2m以上あり、長さも15mもある巨木で、材は非常に目がこんでおりきわめて良質の材がとれたという。さらに、原政憲氏は直径1m、長さ3～4mのスギを切り出している。なお、この埋没木出土地一帯は砂地の場所で、周辺部も砂地が続いているということである（写真4.3-11）。

7. 三瓶町池田相川地区埋没木出土地

森脇義信氏によれば、三瓶町池田の相川地区のバス停よりも少し上流の相川地区で、昭和18年及び19年の水害の時に埋没木が出土し、護岸工事の際に撤去されたという。直径約50～60cm、長さが約4～5mの樹幹が5～6本出土していたということであり、原政憲氏はこの地で出土した埋没木を切り出したことがあるという。

8. 三瓶町池田野畑地区埋没木出土地

藤原眞章氏によれば、三瓶町池田野畑地区で10数年前に直径1.5mほどのスギが横たわっていたのを確認しているということである。ここの埋没木は、地主が反対したため掘り出しはしていないということで、今でも残存しているという。

9. 三瓶町池田掘越地区埋没木出土地

藤原眞章氏によれば、平成12年3月に三瓶町池田掘越地区内の道路工事中に埋没木が数本出土し、その内の1本は直径約40cm、長さ2.3mで樹種はモミであった。埋没木は、地表から2～3mの場所から出土しており、材もかなりしっかりしている（写真4.3-12）。

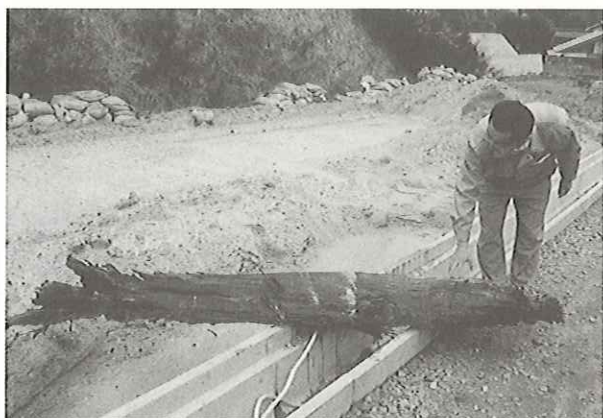


写真4.3-12 工事中に掘り出されたモミの埋没木

10. 三瓶町池田中組地区埋没木出土地

藤原眞章氏によれば、三瓶町池田中組の水田部一帯は、昔池があった跡だとの言い伝えがあり、一体は底なし沼的な様相を呈している。この辺りを掘ると、腐食したヨシの層が2層出てくる。以前、ポンプ小屋の工事をしたとき、地盤が不安定で松杭を何本も打ち込んだことがある。10数年前、水田の水路工事中に、直径0.8m、長さ9mほどの広葉樹と思われる埋没木が出土したことがある（写真4.3-13）。



写真4.3-13 水路掘削時に埋没木が出土した

11. 三瓶町野城稚児橋北西部埋没木出土地

三瓶小豆原埋没林に隣接する、大田市三瓶町野城地区の稚児橋北西部の水田で埋没木が掘り出されたことがあり、同地区の松田襄治氏によれば、自宅南東側にある水田で10数年前にスギの横倒しのものが土木業者により掘り出されたことがある。数は2本で、2本とも直径1.3~1.4m、長さ20m、根は付いておらず樹齢は約500年ほどのものであった。この付近では、他にも小径木が出土しており、県道を挟んだ向かい側の水田にもかなりの埋没木があるということであった。

12. 三瓶町山口藤木谷埋没木出土地

三瓶小豆原埋没林の発見に貢献された新井建設専務の新井藤水氏によれば、三瓶自然館から東に約1.5kmほどの三瓶町山口地区の藤木谷の入り口部の河川敷で、深さ約2mの場所から埋没していたスギの根株を掘り出し、現在も保管しているということである。この根株は、径が約2.5m、高さ約2mのもので、保存状態は極めて良好である。現在のところ、この地では1本しか埋没木は確認されていない（写真4.3-14）。



写真4.3-14 掘り出されて保管されているスギの根株の一部